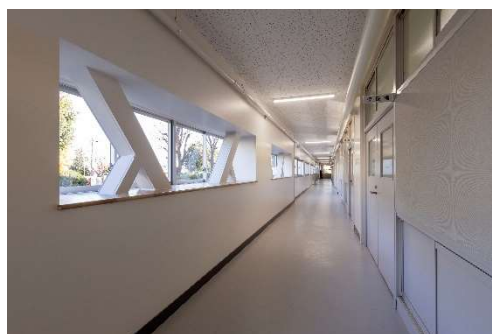


## VII 県立学校の教育環境の改善

### 1 豊かな学びを実現する教育環境の整備

#### ① 校舎等の耐震補強・老朽化対策等の実施

取組み1 「県立学校施設再整備計画」(新まなびや計画) <sup>1</sup> に基づく県立学校の環境整備	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>県立学校において、子どもたちの安全を確保し、安心して快適に過ごせる環境整備を進めるため、「県立学校施設再整備計画」(新まなびや計画)に基づき、耐震化対策や老朽化対策、トイレ環境改善など総合的な施設整備を実施した。</li> <li>耐震化対策については、県立光陵高等学校など13校において耐震化工事が完了し(県立高校等の耐震化率79%：令和2年4月1日現在)、併せて県立二俣川看護福祉高等学校など12校において老朽化対策を実施した。</li> <li>トイレ環境改善については、県立神奈川工業高等学校など83校の整備工事を実施し、各学校において1棟以上の整備が完了した。</li> <li>空調設備の整備については、県立磯子工業高等学校など10校において令和2年度工事の設計を実施した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震化対策や老朽化対策等を計画に則り、継続的に実施していくことが課題である。</li> </ul>
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震化対策については、小規模な補強が必要な校舎等約200棟について、計画第2期末の令和5年度までに耐震化を実施することとしており、令和2年度は31校で耐震化工事を進めていく。</li> <li>老朽化対策については、計画第2期末の令和5年度までに、耐震化対策と併せた施設の長寿命化を、計画第2期・3期では、給排水管更新等、総合的な施設の長寿命化対策を進めていく。</li> <li>トイレ環境改善については、計画第2期末の令和5年度までにすべての校舎等を整備していく。</li> <li>空調設備の整備について、高校は生徒の使用頻度が高い特別教室を、特別支援学校は特別教室・体育館を対象とし、整備工事を進めていく。</li> </ul>



鉄骨ブレース等による耐震化工事後の校舎

#### ② 実験・実習等に係る設備の整備

取組み1 実験・実習等に係る設備や備品の整備	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門高校の備品の現状把握に努め、備品整備計画を進めた。特に老朽化が著しいドラフターや油圧ショベル等を優先的に更新することにより、安全で効率的な実習が実現できた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、計画的な整備を行っていくことが課題である。</li> </ul>

<sup>1</sup>「県立学校施設再整備計画」(新まなびや計画)

まなびや計画で残された課題である、小規模な耐震補強が必要な校舎等の耐震化、総合的な老朽化対策及びトイレの洋式化等の整備等について、県立高校改革実施計画と整合を図り、平成28～令和9年度の12年間(第1期は平成28～令和元年度、第2期は令和2～5年度、第3期は令和6～9年度)に、概ね1,500億円の事業規模により取り組んでいく。

今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門高校における備品の耐用年数と老朽化や使用状況、新学習指導要領を踏まえた必要性等を精査し、今後使用する備品や新たに必要とする備品の整備を計画的に進めていく。</li> <li>自校の実習設備の整備に加え、産業現場における長期間の実習での設備の活用など、外部機関との連携を深めた取組みについて、引き続き推進していく。</li> </ul>
<b>取組み2 地域と連携した実習</b>	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発や販売実習、ものづくりなど、各専門高校が、それぞれの産業の特性を生かし、地域の企業や自治会等と連携することにより、生徒の活動の場を広げることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで以上に生徒の活動の場を広げるため、より多くの受入企業の確保が課題である。</li> </ul>
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>デュアルシステムなどの地域の企業等と連携した実習の推進に向け、「県立高校生学習活動コンソーシアム」の参加企業等に実践事例の紹介をするとともに、実習の受入れなどについて積極的に働きかけていく。</li> </ul>

## ③ 災害に備えた整備

<b>取組み1 災害に備えた物品等の整備</b>	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所の指定の有無にかかわらず、県立学校に地域住民が避難してくることを想定し、市町と協議し、避難者への対応や市町への連絡方法等の初動体制の整備に取り組んだ。</li> <li>県立学校の全教職員及び県立特別支援学校の児童・生徒のための備蓄食料合計9食分（3日分）について、令和元年度中に期限切れとなる1.8食分を更新した。</li> <li>県立学校へ災害時用トイレを7年間で計画的に整備しており、5年目の令和元年度は対象となる138校へ整備を行った。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模地震だけでなく風水害にも対応できるよう、体制を整備していくことが課題である。</li> <li>各学校の状況に即し、必要な物品を把握し、整備していくことが課題である。</li> </ul>
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年の災害の特性にも対応できるよう、市町と協議、連携し、初動体制の整備等をさらに進めていく。</li> <li>災害時に県立学校において必要となる物品について、引き続き、更新、整備を行っていく。</li> </ul>

## 2 効率的で主体的な学校運営の推進のための教育環境の改善

## ① ICT環境の整備

<b>取組み1 校務用パソコンの整備</b>	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の業務負担軽減のため、常勤教員1人につき校務用パソコン1台の配備を持続できるよう、ノートパソコン2,864台を配備し、計画的な更新を進めた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度以降耐用年数が経過する校務用パソコンについて、引き続き計画的に更新を行っていくことが課題である。</li> </ul>
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>常勤教員が使用する校務用パソコンを引き続き計画的に更新していく。</li> <li>全県立学校に配置している業務アシスタントについて、使用状況を勘案して校務用パソコンの配備を行い、更なる教員の負担軽減を図っていく。</li> <li>ICT支援員の配置など、機器やネットワークの管理に係るサポート体制を整備していく。</li> <li>多様化する情報化社会に対応した総合的な情報政策の推進を図る「県教育委員会高度情報化推進会議」等において、ICTを活用した学校運営の効率化等について引き続き検討していく。</li> </ul>

取組み2 ネットワークセキュリティー機能強化	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークトラブル発生時の教員業務の負担を軽減するため、ネットワーク機器を更新した。</li> <li>ホームページ作成・更新作業を簡略化し、教員の業務負担を軽減するために、CMS<sup>2</sup>を段階的に導入したことで、172校中136校（令和2年3月末時点）でホームページのCMS化が図られている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入校においても、CMSの操作に慣れていない教員がいるため、教員に知識や具体的スキルを習得させることが課題である。</li> </ul>
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、CMSの操作研修を教員に行うことで、ホームページ更新等に掛かる作業時間を短縮し教員の負担軽減を図っていく。</li> </ul>

## 有識者の意見

### 【大柱全体を通して】

- 全体的に、教育環境の整備については、課題を把握し、計画的に取り組まれているが、財政状況から、実施に向けて大変苦勞していることがうかがえる。児童・生徒が安全・安心で快適な教育環境の下、学校生活を送ることを考えると、今後も総合的な施設設備の改善を継続的に行うことが必要であり、予算面において一層の努力が求められる。

### 【中柱1－①について】

- 大規模な耐震補強工事や緊急を要する老朽化対策工事は既に完了し、その他の耐震工事や老朽化対策等についても「県立学校施設再整備計画」（新まなびや計画）に基づいて、着実に実施されてきたと判断している。しかし、厳しい財政状況から、計画に沿って進めることが課題となっている。

### 【中柱1－②について】

- 今後の生徒数の減少に対応し、教育環境・設備に優れた私立学校にも負けない県立学校の魅力を発信し続けることはますます重要と考えられる。例えば専門高校では、最新の実習・実験設備の整備はもとより、外部機関での多様な実習機会を提供するなど、教育環境面における工夫は継続していただきたい。専門高校では備品の耐用年数、老朽化への取組み、地域企業との連携等の課題がある。計画的な整備と企業・大学等とのコンソーシアムの有効活用を期待する。

### 【中柱2－①について】

- ICT環境の整備については、常勤教員一人につき校務用パソコン1台が配備されたことやネットワーク機器が更新されたことを評価する。パソコンについては教員の業務負担軽減となり、本来の教科指導、授業準備等に専念することができるようになった。結果として質の高い授業を行い、生徒と向き合う時間が生じ、円滑な学校運営に携わることになり、教員の働き方改革にも繋がる。しかし、機器の導入とともに機器・ネットワーク管理対応等のサポート体制（専門職員の配置、ヘルプデスクへのTV会議システムによる問合せ体制など）を併せて整備することが肝要である。学校横断でICT技術活用推進プロジェクトを設置し、ICTの専門家も交えた、学校運営の効率化や連携強化策の研究・検討を行うことも考えてみてはどうか。

<sup>2</sup> CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）

ホームページなどのウェブコンテンツを構成するテキストや画像、レイアウト情報などを一元的に保存・管理し、サイトを構築し、編集するソフトウェアのこと。